



ふらり らい ぶらりい

～図書室にはこんな本があります～

No. 179

★利用者からの質問をもとに昭和館図書室の資料をご紹介します。
(書名の後の()の数字は請求記号です。)

問) 戦時中の竹槍訓練について知りたい。

答) **全資料** → **ことばから調べる** → **竹槍訓練** → 19件該当

開架

『満州を描いたよ』(916/Ta83)

『別冊歴史読本 第19巻第5号=第232号(平成6年2月)』
(210/B39/19-5) → 竹槍訓練の写真が掲載されています。

閉架

『あの戦争を伝えたい』(210.75/F72)

『玉音頌』(913/Ma83)

『子どもたちの太平洋戦争』(210.75/Y34)

『その時代の空気 下』(210.6/Mu93/2)

『ひとたばの手紙から』(911/U26)

また、2階ひろばで開催中の写真展「昭和20年～空襲と人々の生活～」(戦中)にて、竹槍訓練の写真が展示されています。【開催期間：2015/07/12まで】

図書室には、書棚に並んでいる図書以外にもたくさんあります。
検索端末を使って、読みたい本を探してみてください。
操作方法等、カウンター職員までお気軽にお問い合わせください。

～戦後70年 野球と戦争～ 野球用語の日本語化



戦時下でもプロ野球（当時は「職業野球」と呼称）はかろうじて続けられていました。戦争の影響が次第に大きくなり、「敵性語」として米英語の使用が制限されるようになると、日本野球連盟（「日本野球機構」の前身。1939年3月に「日本職業野球連盟」を改称）も球団名の日本語化を定め、各球団のユニフォームからもローマ字が消されていきました。

「敵国アメリカの国技」である野球への風当たりはさらに強くなり、1943（昭和18）年、日本野球連盟は「試合中は野球帽ではなく戦闘帽を被り、あごひもをかけること」、「背番号は廃止」、「すべての野球用語を日本語化する」等の規則改正を断行したのです。

では、その「日本語化された野球用語」で書かれた試合観戦をちょっと見てみましょう。

迎戦組^{げいせんぐみ}なる西鉄、往戦組^{おうせんぐみ}なる阪神の実力を熟知せるがゆえに、すわお家の一大事と、監督と幹事協議して筆頭投手野口[野口二郎]を起用した。……阪神若林[若林忠志]のはなった打球は遊撃濃人^{のうにんわたる}[濃人 渉]の正面をつき、濃人の手袋におさめられ、次打者景浦^{かげうらまさる}[景浦 將]の痛打は境界線を越えて圏外となったのは惜しかった。一尺違えば正打区域^{せいだ}の正打であったろう。

～大和球士『改訂新版 野球百年』（開架書庫 783/Y45）より～

◎わからないことばは、以下の一覧を参考にしてみてください。

迎戦組＝ホスティングチーム	往戦組＝ビジッティングチーム
幹事＝コーチ	手袋＝グローブ、ミット
境界線＝ファウルライン	圏外＝ファウル
正打区域＝フェアグラウンド	正打＝フェアヒット

「迎戦組」、「正打区域」といった聞き慣れないことばに加え、「手袋」などややこじつけに見えることばもあり、当時の連盟規則委員会の慌てぶりや苦境ぶりが目に見えるようです。

【参考文献】 『終戦のラストゲーム 戦時下のプロ野球を追って』（開架書棚 783/H71）

『昭和日本史 16 スポーツ五十年』（開架書棚 210.7/Sh97/16）

—図書室から—

ハンゴールにて「沖縄慰霊の日」、「高校野球100年」に関する資料を紹介しています。

ぶらりらいぶらりい ～図書室にはこんな本があります～ NO. 179

2015年6月20日 発行/ 編集・発行 昭和館 図書室 〒102-0074 東京都千代田区九段南1-6-1